



## 北海道の子どもたちへ 開発途上国で活動する道産子先生からのメッセージ

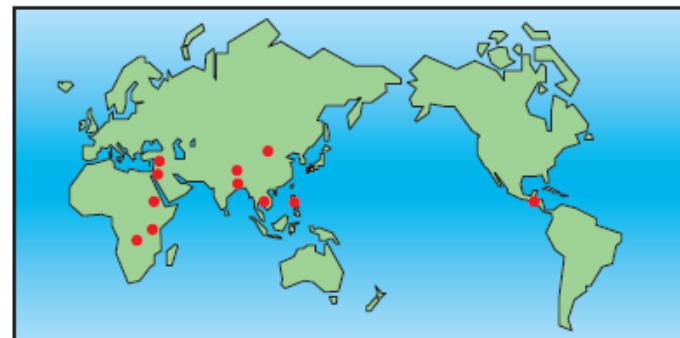
読み書き計算など、生活に必要な知識を学ぶ教育の普及と質の向上は、世界的な課題の一つです。この普及と質の向上のためには、学校校舎などの施設建設・改善、子どもを取り巻く教育環境の改善、教員養成・研修の強化による教員の質的向上、教育方法の改善、教科書・教材などの開発・普及等が必要です。また、人材の育成には幼児期から身体的・情緒的・社会的・知的発達を促す教育が必要ですが、開発途上国では音楽、体育、美術といった人間形成に重要な教育が後回しにされがちです。このような教育分野の課題を解決するためにJICAは様々な協力をしていますが、この中で重要な役割を担っているのが青年海外協力隊です。

「日本の教育経験を開発途上国に伝える」、このために子どもに密着した実践的な経験を持っている現職の先生たちが小学校教諭、理数科教師、音楽、美術、体育などの分野で青年海外協力隊として活動しています。そして、全国で最も多くの現職の先生方が参加しているのが北海道なのです。現在、21人の道産子の現職の先生方がアジア、アフリカ、中南米の国々で活動するとともに、この春には新たに14名の先生方が開発途上国に派遣される予定です。そこで、今回の特集では現在開発途上国で活動中の先生方13名に北海道の子どもたちへのメッセージを書いていただきました。

北海道では教員の青年海外協力隊への参加を教員研修の一つと位置づけ、平成17年度から希望者全員が青年海外協力隊に応募できるようにしました。そして現在約20名の先生方が現職教員特別参加制度を活用し、開発途上国で活動中です。

これらの先生方には北海道での経験を開発途上国で存分に発揮し、開発途上国の発展に貢献することを期待しています。また、北海道と全く異なる環境の中で、現地の方々との相互理解を深めながら活動する協力隊の経験は、教員にとっても貴重な体験となります。帰国後、その経験・体験を還元し、北海道の教育現場の活性化に、そして地域の活性化に貢献することを期待しています。  
(北海道教育委員会)

(「青年海外協力隊『現職教員特別参加制度』のご案内」より)



北海道の子どもたちへのメッセージを書いていただいた先生方の活動国